

弘 前

認知症の解明と予防、治療法を確立し、市民の健康寿命を延ばそうと、2016年度から始まった弘前大学と弘前市の「いきいき健診」の本年度の取り組みが22日、同市の

岩木文化センターあそべーるで始まった。高齢者の健康状態と認知機能の関連などを10年間にわたり追跡調査するもので、9年目を迎えた。28日までの7日間、約730人の市民が参加する予定。

（野呂衣舞姫）

認知機能と健康関連は

「いきいき健診」9年目始まる



参加者らはフリーズドライ食品を食べ、甘味や塩味の感じ方の差をチェックした

弘前大、九州大など全国八つの拠点が参画する研究事業の一環で、市の高齢者健診を兼ねている。16年度に65歳以上だった人を対象に、同じ人の健康状態を隔年で調べる。本年度は、16年度に健診を受けた人の4回目の追跡調査となる。

参加者は1時間半ほどかけて17ブースを回り、血液や睡眠、味覚、歩行速度など全身の健康状態をチェックした。健診を終えた小林房夫さん（80）は「普段から体を動かしたり、食生活に気をつけたりしている。結果を参考にして生活を見直し、続けられることはこれからも続けていきたい」と意気込んだ。

22日、視察した桜田宏市長は「健診が、市民一人一人が元気に長く活躍できる社会をつくるための行動や意識の形成につながっている」と話した。

弘大付属健康未来イノベーションセンターの三上達也センター長は「認知症と歩行速度の関係などが分かってきている。健診を有効活用し、自分の健康に意識を向けてもらいたい」と語った。